

白馬観光開発株式会社

需要獲得

サービス

長野県北安曇郡白馬村

地域の魅力を再発見、日本有数のスキーリゾートから四季を楽しむリゾートへの進化

国際山岳リゾートとして国内外、特に豪州等の人気が高い白馬村と小谷村において、八方尾根・白馬岩岳・栂池高原という、日本有数のスキー場を運営する索道事業者。周辺3市村の10スキー場で構成する「Hakuba Valley Promotion Board」の中心を担う企業。共通リフト券の導入や民宿街のリノベーション等、周辺エリアと連携しながら、白馬ブランド強化とグリーン期の需要拡大に向けて地域を牽引している。

●所在地	長野県北安曇郡白馬村大字北城6329-1
●電話/FAX	0261-72-3150/0261-72-4742
●URL	https://www.nsd-hakuba.jp/
●代表者	代表取締役社長 和田 寛

●設立	1958年
●資本金	10,000万円
●従業員数	92人



需要獲得

サービス

白馬山麓10スキー場で連携、共同でプロモーションを展開

白馬山麓10スキー場では、同社を含む企業14社がHakuba Valley Promotion Board (HVPB) を設立。HVPBが中心となって、1つのスキー場として楽しめる共通の自動改札システムの導入や、シャトルバスのスキー場間の頻繁な運行等を行い、利便性を向上した。SNSやインフルエンサーを活用したプロモーションを中国等に展開、昨シーズンの外国人は総来場者の2割を超え、約37万人と過去最高を記録。



シャトルバスに乗る、外国人スキー客たち

冬の白馬から、四季を楽しめる「通年マウンテンリゾート」へ

白馬地域はスキー・スノーボード人口減少、高齢化等の課題に直面し、スノーリゾートから通年型マウンテンリゾートへと転換を図っている。グリーン期の誘客のために、白馬岩岳の山頂テラスやアドベンチャー施設「白馬つがいけWOW!」の開設、トレッキング、登山、マウンテンバイク、ドッグラン、幼児・小学生向け大自然体験プログラム等、様々なアクティビティを整備。白馬村の2019年グリーン期の来場者数は約106万人と前年の11%増になり、過去5年間の最高を記録。冬期以外もファミリー層や若年層を呼び込む仕組みの構築に貢献した。



アドベンチャー施設で楽しむ家族連れ

地域生産者、外部企業・組織と連携し、白馬地域の魅力を向上

長野県内金融機関、地域経済活性化支援機構(REVIC) 等が運営する「ALL信州観光活性化ファンド」の支援を受け、地域の「食」の魅力を高めるため、地元産の白馬豚を使ったハム・ソーセージを製造・販売する工房を設置。また、廃業の続く民宿街を長期滞在に適した「高級古民家リゾート」に整備する取組を進めている。アウトドア総合メーカーとも共同出資し、体験型複合施設「スノーピークランドステーション白馬」を今春開業する。



白馬豚のハム・ソーセージ